

「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」の表彰について

当金庫では、営業活動を行う北河内地区における「地方創生」を実現するための施策の1つとして「近居・住み替え促進事業（愛称：巡^{めぐ}リズム）」を推進しております。

この「巡リズム」は、住みにくくなったり空き家となった住宅をリノベーションして、子育て世代の方に賃貸したり、或いは売却や取り壊して有効活用することで、安心して暮らしていただける高齢者用住宅への入居などをお手伝いする事業であり、高齢者の生活に安心を与えると同時に、子育て世代の地域への流入を促進させることにより、持続的な地域活性化を図ることを目的としております。

全国の金融機関では、地方創生に向けてその地域の特性に合わせた様々な取組みを行っておりますが、このたび、当金庫の推進する「巡リズム」が、内閣府の「まち・ひと・しごと創生本部」から「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」として表彰を受けました。

今年度の「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」には、当金庫の「巡リズム」を含む34選が認定され、平成29年1月12日（木）に近畿財務局において、内閣府の地方創生推進室 室長代理である川上尚貴氏より、当金庫理事長の吉野敬昌へ表彰状が授与されました。

当金庫の営業地区である北河内地区においても、少子高齢化と人口減少が大きな問題となっておりますが、当金庫では、この「巡リズム」を積極的に推進することで、高齢者の生活の安心と子育て世代の地域への流入を実現し、様々な世代の方が生活を営む活気ある地域の創生に向けて、最大限の力を注ぐ方針であります。



（左が当金庫理事長 吉野敬昌）



（近畿財務局管内では4信用金庫が表彰を受けました）



あなたとともに あなたのために

枚方信用金庫

ひらふ

表彰状

枚方信用金庫殿

貴社は

その幅広い情報・ネットワークを活用し
地方創生に資する取組に尽力され
その功績は特に顕著であり

平成二十八年度の金融機関等の
「特徴的な取組事例」三十四選に
認定されました

よってこれを表彰します

平成二十九年一月十二日

国務大臣
内閣府特命担当大臣
地方創生担当

山本 幸三



ひらしん

枚方市の“快適で暮らしやすい環境を備えたまちづくり”に協力して、ひらしんは『空き家』対策に取り組んでいます。

近居・住み替え促進事業

ご自宅を「売る・貸す」のお手伝い!!

みんなが暮らしやすい環境に!!

巡リズム

めぐ

ご高齢の皆様
安全・安心な
シニアライフを

シニアの笑顔と子育て世代の増加で、
地域がどんどん元気になる!

若い世代の皆様
お手頃家賃で
整った住環境を

ひらしんが老後の資産活用をお手伝いします!!

不動産の活用例 : リノベーションして賃貸、アパート経営、コインパーキング

ひらしんのお手伝い: リフォームローン、リバースモーゲージローン「あんしん」、アパート・マンションローン

家賃収入

例えば

老朽化した郊外の家をリノベーション

借りる

介護付き有料老人ホームや
駅近のマンションに住み替え

家賃収入で安心・安定した生活

マンション並みの家賃で
郊外の一軒家に住み替え

のびのびと子育てできる生活

年を取るとひとり暮らしはもちろん、夫婦だけの暮らしも何かと不安が多いもの。
ひらしんでは、住みにくくなったり空き家となった住宅をリノベーションして、
子育て世代の方などに賃貸したり、或いは売却や取り壊して
有効活用することで、安心して暮らしていただける
高齢者用住宅への入居などを
お手伝いする事業を行っています。

空き地を
駐車場にして
活用!!

若い世代の
のびのび子育てを
応援!!

「ひらしん」は不動産を有効活用した豊かなシニアライフを応援します!
まずは裏面のアンケートで、ご要望をお聞かせください。

 **枚方市**
Hirakata City Official Website



こころまちつくり
KEIHAN
京阪電車

あなたとともに あなたののために
 **枚方信用金庫**
http://www.shinkin.co.jp/hirakata/

<連携機関一覧(五十音順)> 株式会社アセット不動産、株式会社サンエース、株式会社マエダエステート、株式会社明星、積水ハウス株式会社、三井トラスト不動産株式会社、パナホーム株式会社大阪支社、パナホーム不動産株式会社、パナホームリフォーム株式会社、株式会社やさしい手いくの

2. 「近居・住替え促進事業 “巡リズム”」

(枚方信用金庫)

1. 取組を始めるに至った経緯、動機等

- 枚方市及びその周辺地域は、高度経済成長期に鉄道会社の沿線開発により、京阪神地区で働く世代の住居地域として発展してきた歴史がある。移り住んできた住民も高齢化が進み、核家族化と少子化の進行で世帯人口は下がり続けている。
- 近年、大規模な宅地開発をする地区もなく人口は減少傾向にある。しかしながら、世帯数は増加し続けており、独居老人世帯化が進んでいる状態である。特に、近い将来空き家になる可能性が高い独居老人世帯が増加しており、早急な取組が求められている。
- 人口減少は地域金融機関にとっても重要な経営課題と認識しており、枚方市及びその周辺地域(北河内7市)の地方創生案を検討する中で、RESAS等を活用し、地域経済等情報分析を行った結果、地域資源を活用したスキームを提案したものである。

2. 具体的な取組内容

- 高齢者世代が、枚方市内の高齢者専用住居(サ高住・専用集合住宅・民間版特養等)に移り住み、所有している住宅は、「売却、賃貸、取り壊す」などして子育て世代の他市(大阪市内)からの移住促進を図る(近居及び地域版コンパクトシティの実現)。
- 包括協定を締結し枚方市等5市と連携して、官と民がネットワークを組む事業モデルとし、高齢者が気軽に相談できる体制をつくり、相談者個々の実情に合わせた最善の解決策を提案することで「空き家」を発生させない取組とする。
- このスキームは、多世代が共存する持続的可能なまちを「人の巡リズム」により創造するものであり、枚方信用金庫が、子育て世代の近居・移住につながるよう、資金支援及び情報提供を行い子育て環境の改善に貢献する。

3. 実施にあたり工夫した点(関与のポイント・推進体制面・PDCAサイクル面等)

- 「空き家」になってからでは所有者(相続人等)との連絡、連携が難しくなるため、全店の機動力を使って既取引先の高齢者宅をローラーしている。
- 高齢者の判断能力が十分な状況下で聞き取りし、個人情報厳格に管理して守秘義務を徹底した推進を図っている。
- 京阪グループやハウスメーカーとも連携することで、民間事業者が提供する各種サービス(介護サービス・部屋の片付・庭木の剪定等)も組み合わせ、高齢者の利便性に配慮した他地域にない活動としている。

4. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- 平成28年4月よりローラーを開始し、半年間で高齢者宅4,648先を職員が訪問しデータベース化した。
- 住宅や空き地の活用について157件の相談を受け、売却や賃貸を希望する高齢者をハウスメーカーへ紹介し17件が成約した。
- リフォーム資金や売却先への購入資金の提供など幅広く対応し、9月末までに71件27億円の融資を実施した。

5. スキーム図等

枚方信用金庫

